広報かがみの 1
2024年1月号 第227号 毎月1日発行

シリーズ 第164回

# 竜にまつわるはなし

令和六年の干支は辰年です。そこで今回は、町内における竜にまつわる話を紹介したいと思います。

**①盤龍鏡**

土居にある約四五メートルの前方後円墳、赤峪古墳から出土した青銅製の鏡です。今から約二、〇〇〇年前、中国の後漢の時代に作られ、日本にもたらされたものです。直径約一一・六センチの鏡の裏面には、龍と虎が半肉彫りに描かれていることから盤龍鏡（龍虎鏡）と呼ばれています。龍虎の画像の周りには、王が周囲の異民族を服従させ、人民が実りの多い住みよい国で安らかに暮らしていくという王の威徳を顕彰する意味をもつ三十二文字の銘文があります。古代における鏡は、単に姿を写すものではなく王の威信を示す宝物としての意味合いがあり、龍は中国の歴代王朝においては皇帝の象徴とされています。赤峪古墳に葬られた王様はこの鏡を権力の証として所持していたのでしょう。

盤龍鏡（鏡野郷土博物館にて展示）

小田草神社（馬場）

奥津神社（長藤）

**②竜穴**

『作陽誌』（一六九一年刊）の小田草神社の記事に掲載されています。小田草神社の南に小田草池と言われる穴があり、竜穴とも呼ばれていました。穴は直径約九〇センで、どのくらいの深さかはわかりませんが、小田草神社の神官は代々この穴の上に家を建てて住んでいました。しかし江戸時代の初めに家を別の場所に移したところ、間もなくその家が火災で焼失してしまったため、これは神様の意向に逆らったのではないかと思い、また家を元の場所に戻した、とあります。言い伝えでは、昔ここにあった池に神竜が千年の間住んでいましたが、ある時村人がここにほこらを作って神竜を祀ると、神竜は池を出てそのほこらに移ってしまったせいか、池の水が急に渇きはじめ、後に残った穴がこの竜穴である。と書かれています。

**③竜神**

奥津に伝わる昔話です。昔、大干ばつに見舞われた時、村人は竜神様に雨乞いのお祈りを捧げました。するとある日、大きな音と共に竜神様が現れ、「毎晩牝牛を一頭ずつ供えて祈れば大雨を降らせてやる」という声が聞こえました。人々は言われた通りに毎晩牛を供えましたが雨が降る気配はありません。そこでもう一度竜神様にお伺いをたてると今度は「牛がいなくなったら今度は若い娘を差し出せ」というお告げがありました。

村人は娘を差し出すことはできないので、大きなお寺のお坊さんに相談すると、そのお坊さんは「それは竜神の名をかたった悪い大蛇の仕業だろう」と竜神のほこらの北にあった穴の入口に煙草の脂で作った丸薬に鳥の血を塗ったものを置くと、それを食べた大蛇が苦しみながら出てきました。そこでお坊さんが経を唱えながら錫杖を大蛇に投げつけると大蛇は竜に変わり、お坊さんに飛びかかってきたので、お坊さんは竜に数珠をたたきつけると、竜は頭・口・胴体・尻尾の四つに分かれて飛び散っていきました。竜の頭は北の川の淵の底にありました。下斎原の竜頭の淵がその場所だと言われています。竜の口はグマ田の畦に埋め、大石を置いて竜の口様として祀りました。奥津神社の前にあり、日照りの時にその石に水をかけると雨が降るといわれます。尻尾は長藤の東、呑水奥に埋められ石を建てて祀られ、胴体は堂ケ峪にあり、奥津神社参道脇に埋め、お堂を建てたといいます。

令和六年が良い一年でありますように。

参考：『鏡野町史』『赤峪古墳』『作陽誌』『小田の文化誌』『奥津町の民話』

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-0573

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/